

「臨床環境医学」29(2)正誤表

p. 70 本文右 上から2行目 森本正一（新菱冷機）→森本正一（新菱冷機工業）

p. 72 表2の右が切れていたもので以下の表2に差し替え。

p. 73. 本文右 上から3行目 釣木澤尚美→釣木澤尚実

p. 74 本文左 上から7行目 20. 8. 3→2020. 8. 3

p. 74 本文左 上から10行目 末尾の「」→トル

p. 74 本文左 上から16行目 2020. 2. 16→2021. 2. 16

p. 76 10月11月5日→10月11日、11月5日

p. 72 表2

ID	施設内のゾーニング	PPE
5	感染症専用棟やエレベーターはないので汚染区域と非汚染区域を時間で分けている。必ず人を立てて通行止めにして交わらないようにしている。当院はホットゾーンとコールドゾーンだけ設定して曖昧なエリアは作らず、「わかりやすい=間違えない」ことを心がけている。	Covid-19患者対応の前には必ずPPE着脱訓練をして定量式フィットテストに合格してもらうことにしている。
9	外部からの動線、病棟まで専用区画とし第三者を入れていない。エレベーターも専用運転としている。	各室にPPEを設置。
10	ゾーニングを明確にするために簡易の壁を設置している。コロナ病床は40床確保しているがコロナ疑似症病棟と陽性者病棟を分けて患者の流れをコントロールしている。回復者であっても原病の悪化で退院できない患者はコロナ回復者病室を設置し、防護具も簡素化している。	陽性者病棟ではタイベックスを着用し全ての患者をその着衣で行うので防護具は節約になる。
11	記述なし	N95マスクは7勤務まで使用；ゴーグルもアルコール清拭で使用；発熱外来を院外に設置する為のエアータントや減圧装置（HEPAフィルター付）を日本財団にご寄付いただいた。
22	緊急部門において、発熱、気道症状により2サイト、2ゾーンで診療を行っている。コロナ確定患者専用の入院病棟を整備している。（11床）	記述なし
26	帰国者接触者外来及び、発熱者外来の患者と一般外来患者の交差を無す努力を行っている；ゲートトリアージにて発熱者Covid-19の症状のあるPtの間診を行なっている。（入館規制を行なっている）；院内の陽性者入院病棟の改修を行い、レッドゾーン、イエローゾーン、ブルーゾーンと明確にしている。	記述なし
27	環境感染症学会などが示すスタンダードな取り組みのみで特別な工夫はしていない。発熱外来は施設内では構造上スペースがとれないので、別にプレハブを設置し、診療検査を実施している。換気、気流には注意して設計した。	病院施設内の従事者はマスクとアイガードの装着を義務化している。
35	記述なし	記述なし
43	厚生労働省、国立感染研、日本環境感染学会からの文書を下して行ってる。	N95については1枚/日。
45	汚染区域（レッドゾーン）と清潔区域（グリーンゾーン）を明確に区分しマニュアル化している。ナースステーションは清潔区域に設定し、医療従事者の感染リスクを低減している。新型コロナウイルス陽性者を1つの病棟へ収容し、担当医療者（チーム）も固定している。	個人防護具の着用場所と脱衣場所を明確に区分し、指定し、交差感染を防止している。新型コロナウイルス感染病棟（汚染区域）へ入る医療従事者は、汚染区域へ立ち入る際に、必要な個人防護具を着用し、汚染区域から出る際に個人防護具を脱衣する。
47	動線が交わらないようにルートを決めたり、待ち合いも分離するよう努めている。	物品不足にも対応できるようリユース商品を導入している。
48	Covid-19の患者さんが入院される時には、エレベーターを専用に使っている。発熱外来は別棟で、その機に専用駐車スペースを設け患者さんは車に乗ったまま拭き検査をしている。	PPEを着脱する所には、姿見鏡を設置し、きっちりできる様確認できる。
53	1.一般病棟にコロナ患者を受け入れるため以下の対策を行った（3病棟）：病棟の廊下に2重扉を設置するゾーニング工事を施工した；ナースステーションのオープンカウンターへガラス戸を設置した；病室床材をカーペットタイルから塩ビタイルに変更した。2. 外来診療再会時の対応：正面玄関において来院者の検温と問診による有熱者のトリアージを行い、有熱者待機用のゾーンを設置した。	個人防護具の着脱研修を徹底した；支援された雨ガッパやタイベックに切り込みを入れる等工夫して使用した。